



ミュージック データ プレーヤー

MDP-30/30S

取扱説明書



GENERAL
MIDI2 XG GS DISK
ORCHESTRA

ご使用の前に、必ず「安全上のご注意」(2~5ページ)をお読みください。

JA

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。
お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

| | |
|--|-------------------------|
| | 「ご注意ください」という注意喚起を示します。 |
| | ～しないでくださいという「禁止」を示します。 |
| | 「必ず実行」してくださいという強制を示します。 |

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠ 警告

電源 / 電源アダプター



電源は必ず交流 100V を使用する。

エアコンの電源など交流 200V のものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。

必ず実行



電源アダプターを使用する場合は、必ず指定のもの（PA-5D またはヤマハ推奨の同等品）を使用する。

（異なった電源アダプターを使用すると）故障、発熱、火災などの原因になります。

必ず実行



電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。

必ず実行



電源アダプターコードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

禁止

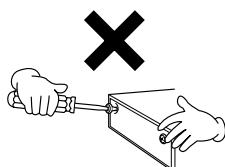
電源アダプターコードが破損し、感電や火災の原因になります。

分解禁止



この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。異常を感じた場合など、点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。



⚠ 注意

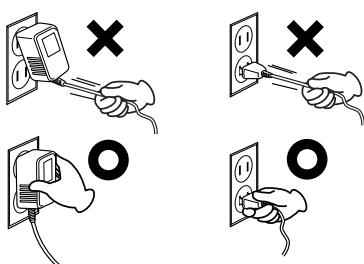
電源 / 電源アダプター



電源プラグを抜くときは、電源アダプターコードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源アダプターコードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。

必ず実行



水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本体の上にろうそくなど火気のあるものを置かない。
ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

異常に気づいたら



必ず実行

電源アダプターコード / プラグがいたんだ場合、または、使用中に音が出なくなったり異常においや煙が出たりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

乾電池



乾電池はすべて+/-の極性表示どおりに正しく入れる。
正しく入れていない場合、発熱、火災、液漏れのおそれがあります。

必ず実行



乾電池は一度に全部を交換する。乾電池は新しいものと古いものを一緒に使用しない。また、種類の異なったもの（アルカリとマンガン、メーカーの異なるもの、メーカーは同じでも商品の異なるものなど）と一緒に使用しない。
発熱、火災、液漏れの原因になります。



乾電池を分解したり、火の中に入れたりしない。
乾電池の中のものが目に入ると危険です。また、火の中に入れると破裂するおそれがあります。



使い切りタイプの乾電池は、充電しない。
充電すると液漏れや破裂の原因になります。



長時間使用しない場合や乾電池を使い切った場合は、乾電池をリモコンから抜いておく。
乾電池が消耗し、乾電池から液漏れが発生し、リモコンを損傷するおそれがあります。



乾電池は子供の手の届くところに置かない。
お子様が誤って飲み込むおそれがあります。また、電池の液漏れなどにより炎症を起こすおそれがあります。



乾電池が液漏れした場合は、漏れた液に触れない。万一液が目や口に入ったり皮膚に付いたりした場合は、すぐに水で洗い流し、医師に相談する。
失明や化学やけどのおそれがあります。



設置



直射日光のある場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところに置かない。

本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。



テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しない。

本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



不安定な場所に置かない。
本体が転倒して故障したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。

必ず実行



本体を移動するときは、必ず電源アダプターコードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。

コードをいためたり、お客様や他の方々が転倒したりするおそれがあります。



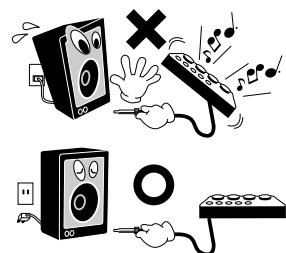
この機器を電源コンセントの近くに設置する。
電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

接続



他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行なう。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小にする。さらに、演奏を始める場合も必ず両機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げていき適切な音量にする。

感電または機器の損傷の原因になることがあります。



手入れ



本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは使用しない。

本体のパネルが変色 / 変質する原因になります。お手入れには、乾いた柔らかい布、もしくは水を固くしぼった柔らかい布をご使用ください。

使用時の注意



本体のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。
感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。
入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



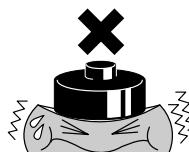
本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かない。

本体のパネルが変色 / 変質する原因になります。



本体の上にのったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。





大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。

禁止



データの保存

USB記憶装置 / 外部メディアのバックアップ

保存した USB 記憶装置 / 外部メディアの万一の事故に備えて、大切なデータは予備のUSB 記憶装置 / 外部メディアにバックアップとして保存されることをおすすめします。



必ず実行

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。スタンバイ時の消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源アダプターのプラグをコンセントから抜いてください。

使用済みの乾電池は、各自治体で決められたルールに従って廃棄しましょう。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わず迷惑をかけてしまうことがあります。夜間の演奏には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

このたびは、ヤマハミュージックデータプレーヤー MDP-30/30Sをお買い求めいただきまして、誠にありがとうございました。

MDP-30/30Sは、GM、XG、DOCなど幅広い種類のミュージックデータを簡単操作で再生できる、スピーカー内蔵のミュージックデータプレーヤーです。

優れた機能を十分お楽しみいただくために、本書をお読みください。また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管してください。

■付属品(お確かめください)

- ・電源アダプター (PA-5Dまたはヤマハ推奨の同等品)
 - ・保証書
 - ・ユーザー登録のご案内*
*ユーザー登録の際に必要となるプロダクトIDが記載されています。
 - ・リモコン
 - ・リモコン用単3乾電池(2本)
 - ・取扱説明書(本書)
-

こんなことができます

◆ミュージックデータを使って楽器の練習

- ・右手パートと左手パートが別々のトラックに入っているピアノ曲などのミュージックデータを使うと、練習したいパートをミュート(消音)して、ピアノやオルガンで片手練習することができます(18、28ページ)。
- ・曲中のポイントを設定してくり返し再生できますので、練習したい部分を集中して練習することができます(31ページ)。
- ・テンポを調節したり(16ページ)、再生前に1～2小節のカウント音を入れたり(29ページ)、メトロノームやリズムを鳴らしたり(32ページ)、再生音を移調したり(34ページ)できるなど、楽器の練習に便利な機能がついています。

◆ミュージックデータを再生しながら楽器を演奏してアンサンブル

MDP-30でミュージックデータの伴奏パートだけを再生しながら、ピアノやリコーダー、管楽器などでメロディーパートをご自身で演奏して、アンサンブル演奏を楽しむことができます(18、28ページ)。

◆コンパクトで手軽に持ち運び

ステレオのアンプ/スピーカーを内蔵していますので、本体だけで再生できます。また、軽量なため取っ手を持って簡単に持ち運びできます。

◆便利なリモコン操作

リモコンが付属していますので、離れたところからでも操作がでて便利です。

◆大量のデータも簡単アクセス

USBフラッシュメモリーを接続できますので、大量のデータを手軽に扱えます。コンピューターなどを使って、フォルダーごとにデータをまとめておけば、データのアクセスも簡単です。

また、フロッピーディスクドライブ(別売)を接続すれば、今までお使いのフロッピーディスクソフトも再生できます。

取扱説明書について

この取扱説明書は、以下のように構成されています。



準備 (10ページ)

最初にお読みください。



クイックガイド (14ページ)

内蔵のプリセットソングを使って、再生の基本手順を説明しています。ぜひお試しください。



リファレンス (20ページ)

本機を便利に使いこなすための操作を説明しています。より詳しく知りたいときにご覧ください。



付録 (40ページ)

プリセットソングリストやミュージックデータのご紹介などの資料を掲載しています。

表記上の決まり

- []MDP-30本体とリモコンのボタン類を示します。たとえば、電源のスイッチは、本文中で[電源]スイッチと表記します。
- 「 」パネル中央の画面中の表示を示します。

* 本書は、本体での操作を中心に説明しています。リモコンでの操作は欄外のイラストを参考してください。

* この取扱説明書に記載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。

* 本文中では、MDP-30とMDP-30Sを代表してMDP-30と表記します。また、省略してMDPと表記することもあります。

この製品は、ヤマハ(株)が著作権を有する著作物やヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物を内蔵または同梱しています。その著作物とは、すべてのコンピュータープログラムや、伴奏スタイルデータ、MIDIデータ、WAVEデータ、音声記録データなどのコンテンツを含みます。ヤマハ(株)の許諾を受けることなく、個人的な使用の範囲を越えて上記プログラムやコンテンツを使用することについては、著作権法等に基づき、許されていません。

* この製品には、XGフォーマット以外の音楽/サウンドデータを扱う機能があります。その際、元のデータを本機に最適化して動作させるため、オリジナルデータ(音楽/サウンドデータ)制作者の意図どおりには再生されない場合があります。ご了承のうえ、ご使用ください。

* ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどご配慮をお願いします。

* MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。

* その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

目次

| | |
|----------------------------|-----------|
| 付属品(お確かめください) | 6 |
| こんなことができます | 7 |
| ご使用前の準備 | 10 |
| 電源を入れる | 10 |
| 画面のコントラストを調節する | 10 |
| リモコンを準備する | 11 |
| 音量を調節する | 11 |
| プリセットソングを再生してみましょう | 14 |
| 再生の基本手順 | 14 |
| テンポの調節 | 16 |
| トラックごとの再生/ミュート(消音) | 18 |
| 各部の名前 | 20 |
| 基本操作 | 22 |
| 画面の見かたと操作 | 22 |
| ミュージックデータを再生する | 24 |
| 楽器の練習の際に便利な機能 | 26 |
| チューニング | 26 |
| トラック情報の表示と再生/ミュート | 28 |
| カウントイン | 29 |
| マークとジャンプ/くり返し再生 | 30 |
| メトロノーム/リズム | 32 |
| 移調 | 34 |
| データのコピーなどのファイル操作 | 35 |
| ファイルやフォルダーのコピー/移動/削除 | 35 |
| ドライブの初期化(フォーマット) | 37 |
| 他の機器との接続 | 38 |
| プリセットソングリスト | 40 |
| リズムリスト | 40 |
| メッセージ一覧 | 41 |
| 困ったときは | 42 |
| 再生できるデータについて | 43 |
| 仕様 | 44 |
| 索引 | 45 |
| 保証とアフターサービス | 46 |

準備

クイックガイド

リファレンス

付録

ご使用前の準備

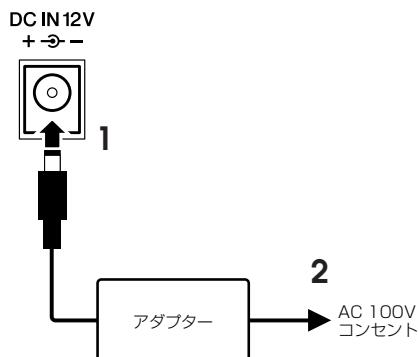
電源を入れる

- 1 付属の電源アダプターのDC プラグをリアパネルの
[DC IN 12V] 端子に差し込む



電源アダプターは、付属のアダプター (PA-5D またはヤマハ推奨の同等品) をご使用ください。他の電源アダプターの使用は故障、発熱、発火などの原因になります。このような場合は、保証期間内でも保証いたしかねる場合がございますので、充分にご注意ください。

- 2 電源アダプターのAC プラグを家庭用(AC100V) コンセントに差し込む



電源は必ずAC100Vを使用してください。



長時間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。感電や火災、故障の原因になることがあります。

- 3 [電源]スイッチを押す

電源が入り、画面に表示が現れます。



電源を切るときは、もう一度[電源]スイッチを押します。

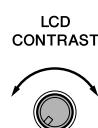
電源を切るとチューニング、基準音以外の設定は初期設定に戻ります。



電源スイッチが切れている状態でも微電流が流れています。長時間使用しないときは必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

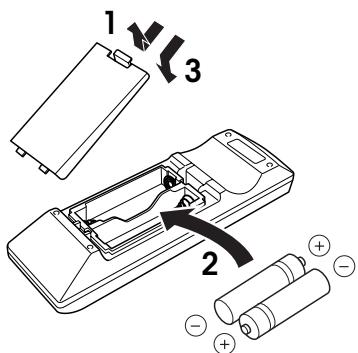
画面のコントラストを調節する

本体のリアパネルにある[LCD CONTRAST]つまみを回して、画面のコントラストを調整します。



リモコンを準備する

リモコンの裏側の電池ブタをはずし、単3乾電池を2本入れます。乾電池はイラストに合わせて、向きを間違えないように入れてください。



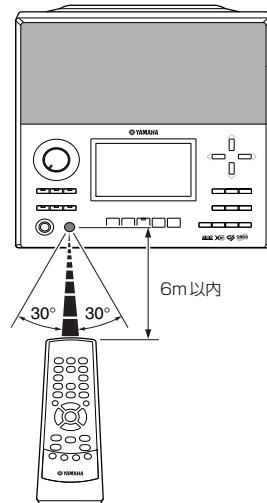
乾電池は新しいものと古いものを一緒に使用しないでください。また、種類の異なるもの(アルカリとマンガン、メーカーが異なるもの、メーカーは同じでも商品が異なるものなど)と一緒に使用しないでください。発熱、発火、液漏れの原因になります。



長時間使用しない場合や、乾電池を使い切った場合は、乾電池をリモコンから抜いてください。乾電池が消耗し、乾電池から液漏れが発生して、リモコンを損傷するおそれがあります。

■ リモコンを使用する

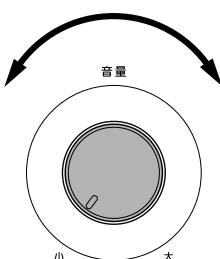
リモコンの赤外線送信部を本体の赤外線受光部に向けて操作します。リモコンで操作できる範囲は、本体から6メートル以内です。



音量を調節する

[音量] ダイアルを左右に回して調節します。

初めは音量を最小にしておいて、実際に曲を再生しながら、徐々に音量を上げていってください。



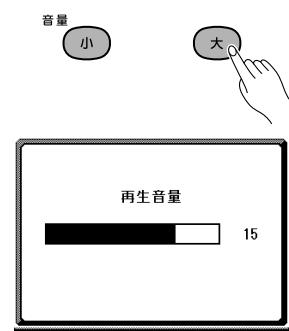
音が出ない場合は、リモコンで「再生音量」を0に設定していないかご確認ください。



大きな音量で長時間使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

■ リモコンで音量調節する場合

リモコンの音量[大]/[小]ボタンを押すと、「再生音量」画面が表示されます。「再生音量」の値0~20の範囲内で音量を調節できます。「再生音量」は電源を切ると初期設定に戻ります。



リモコンでの操作と本体の[音量]ダイアルは連動しません。リモコンで「再生音量」を最大にしても、まだ音が小さい場合は、本体の[音量]ダイアルで調節してください。

リモコンの音量[大]/[小]ボタンでは、AUX OUT [R] [L/L+R]端子からの出力レベルも調節されます。

USB端子ご使用上の注意

本機にはUSB端子があります。USB端子にUSB機器を接続する場合は、以下のことをお守りください。

NOTE

- ・USB機器の取り扱いについては、お使いのUSB機器の取扱説明書もご参照ください。

■ 使用できるUSB機器

- ・USB対応の記憶装置(フラッシュメモリー、フロッピーディスクドライブ)

動作確認済みUSB機器については、ご購入の前にインターネット上の下記URLでご確認ください。

<http://jp.yamaha.com/products/musical-instruments/keyboards/support/usb/>

NOTE

- ・上記以外のUSB機器(マウス、コンピューターのキーボードなど)は、接続しても使えません。

■ USB機器の接続

- ・USB端子の形状に合うプラグを向きに注意して差し込んでください。



- ・本機はUSB1.1に対応していますが、USB2.0の機器でも使用できます。ただし転送スピードはUSB1.1相当になりますので、ご了承ください。

USB記憶装置の取り扱いについて

本機にUSB記憶装置を接続すると、USB記憶装置のデータを、本体で再生したり、本体に保存したりできます。

■ 接続できるUSB記憶装置の数

同時に使用できるUSB記憶装置は、1台のみです。
(USBハブは使用できません。)

■ USB記憶装置のフォーマット

USB記憶装置の中には、本機で使用する前にフォーマットが必要なことがあります。USB端子にUSB記憶装置を接続したとき(またはUSB記憶装置にフロッピーディスクなどのメディアを挿入したとき)に、フォーマットを促すメッセージが表示された場合は、フォーマットを実行してください(37ページ)。



- ・フォーマットを実行すると、そのメディアの中身は消去されます。必要なデータが入っていないことを確認してからフォーマットしてください。

■ 誤消去防止

USB記憶装置には、誤ってデータを消してしまわないようライトプロテクト機能のついたものがあります。大切なデータが入っている場合は、ライトプロテクトで書き込みができないようにしましょう。逆にデータを保存する場合などは、ご使用の前にお使いのUSB記憶装置のライトプロテクトが解除されていることをご確認ください。

■ USB記憶装置の抜き差し

USB記憶装置を外すときは、コピー/移動/削除などデータのアクセス中でないことをあらかじめ確認したうえで外してください。



- ・USB記憶装置の頻繁な電源のオン/オフや抜き差しをしないでください。MDP本体の機能が停止するおそれがあります。コピー/移動/削除/フォーマットなどの実行中やUSB記憶装置の認識中のメッセージが表示されているときは、USBケーブルを抜いたり、USB記憶装置からメディアを取り出したり(USBフラッシュメモリーを抜いたり)、双方の電源を切ったりしないでください。メディアが壊れたり、MDP本体/メディアのデータが壊れたりするおそれがあります。

フロッピーディスクの取り扱いについて

別売のフロッピーディスクドライブ(44ページ)を接続してフロッピーディスクを使用すると、ディスク内のデータを再生したり、本体にコピーしたりできます。

フロッピーディスクをご使用いただく場合は、以下のことをお守りください。

■ 使用できるフロッピーディスクの種類

- 3.5インチの2DD、または、2HDフロッピーディスクが使用できます。

■ フロッピーディスクのフォーマット

- 新しいディスクや他の機器で使っていたディスクは、そのままでは使えない場合があります。フロッピーディスクドライブに入れてもディスクが読めない場合は、フォーマット(初期化)をする必要があります。フォーマットの方法は37ページをご覧ください。なお、フォーマットを行なうとディスク内のすべてのデータは消去されます。あらかじめ、データの有無をご確認ください。

NOTE

- この機器でフォーマットしたフロッピーディスクは、そのままでは他の機器で使えない場合があります。

■ フロッピーディスクの挿入/取り出し

● フロッピーディスクの挿入

- フロッピーディスクのシャッターに文字が書かれている方(表面)を上にして、ディスク挿入口にカチッと音がするまでていねいに差し込みます。

● フロッピーディスクの取り出し

- あらかじめフロッピーディスクにアクセス中*でないことを確認した上で、ディスク挿入口の右上にあるイジェクトボタンをしっかりと奥まで押します。フロッピーディスクが押し出されるので、取り出して(引き抜いて)ください。フロッピーディスクが途中で引っかかり取り出せなくなった場合は、無理に取り出そうとせず、もう一度イジェクトボタンを押しなおすか、またはフロッピーディスクをディスク挿入口に完全に押し込んでからやり直してください。

*アクセス中：再生やデータのコピーなどの作業中を指します。また、電源が入っている状態でフロッピーディスクを挿入したときも、MDP本体がディスクの内容を確認するために自動的にアクセス中になります。



- アクセス中にフロッピーディスクを取り出したり、MDP本体の電源を切ったりしないでください。ディスク内容がこわれるだけでなく、フロッピーディスクドライブの故障の原因になります。

- 電源を切るときは、フロッピーディスクはあらかじめディスクドライブユニットから取り出してください。電源を切ったあと、フロッピーディスクを入れたまま長時間放置すると、ディスクが汚れ、データの読み書きにエラーが生じる原因になります。

■ 磁気ヘッドの定期的なクリーニング

- ディスクドライブユニットは高精度の磁気ヘッドを使用しています。ディスクドライブユニットを長時間使用していくうちに、磁気ヘッドはフロッピーディスクの磁性粉で汚れてきます。磁気ヘッドが汚れると、録音や再生にエラーが生じることがあります。
- ディスクドライブユニットを良好な状態でご使用いただくために、磁気ヘッドを定期的に(1ヶ月に1回程度)クリーニングしていただくことをおすすめします。

NOTE

- 磁気ヘッドのクリーニングには、市販の「乾式ヘッドクリーニングディスク」をご使用ください。なお、取扱説明書巻末のヤマハ修理ご相談センターで、弊社推薦の「乾式ヘッドクリーニングディスク」をお求めいただくこともできます。

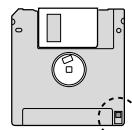
■ フロッピーディスクについてのご注意

● フロッピーディスクの取り扱いと保管

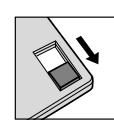
- (持ち運ぶ場合も含めて)必ず市販のケースに入れて保管し、落としたり、物をのせたり、折り曲げたりしないでください。また、ディスク内部に水やほこりなどが入らないようにしてください。
- 直射日光のある場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところに置かないでください。
- ディスクのシャッターを開けて、内部の磁性体に触れないでください。
- 磁気を帯びたもの(テレビやスピーカーなど)には近づけないでください。
- シャッターやディスク自体が変形しているようなディスクは、使用しないでください。
- フロッピーディスクにはラベル以外のもの(メモなど)を貼らないでください。ラベルは所定の位置にはがれないようにしっかりと貼ってください。

● 誤消去防止

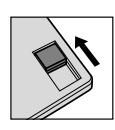
- フロッピーディスクには、誤ってデータを消してしまわないようライトプロテクトタブ(書き込み禁止タブ)が付いています。大切なデータが入っているディスクは、ライトプロテクトタブをオン(タブの窓が開いた状態)にして、書き込みができないようにしてください。
- 逆に、データを保存する場合などは、ご使用の前にディスクのライトプロテクトタブがオフになっていることをご確認ください。



フロッピーディスクの裏側



書き込み不可

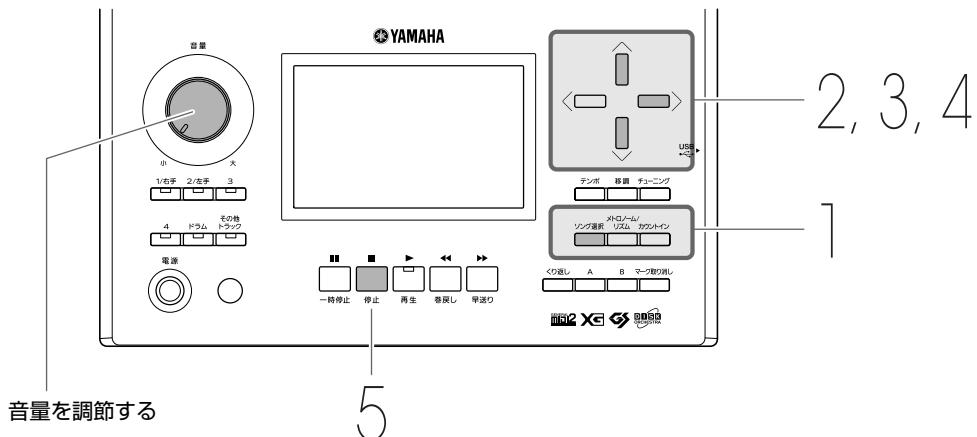


書き込み可

NOTE

- 市販フロッピーディスクの中には粗悪品もございます。メーカー名をご確認の上、お求めください。

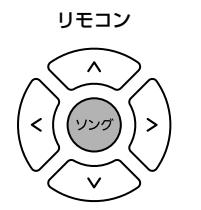
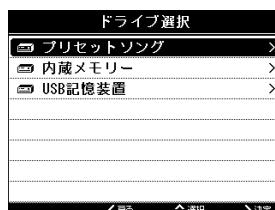
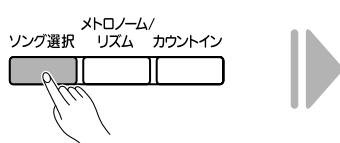
プリセットソングを再生してみましょう



再生の基本手順

1 [ソング選択]ボタンを押す

「ドライブ選択」画面が表示されます。



「ドライブ選択」画面が表示されない場合は、表示されるまで[<]ボタンを何度も押します。

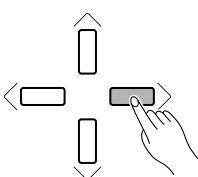
ソングとは

MDP-30では、ミュージックデータ(曲データ)を総称して「ソング」と呼んでいます。

プリセットソングリストは、40ページに記載しています。

2 [>]ボタンを押して「プリセットソング」に決定する

「プリセットソング」が反転表示された状態で、[>]ボタンを押すと、「プリセットソング」のリスト画面が表示されます。

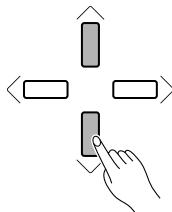
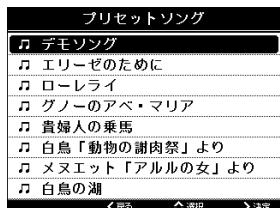


ここでは、本体に内蔵されたソングデータ(プリセットソング)を使って、再生の基本手順と、楽器を練習する際の使用例を説明します。

3

[^]/[▼]ボタンで再生したいソングを選ぶ

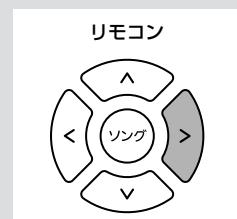
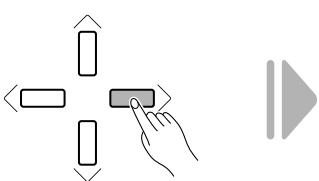
[^]/[▼]ボタンを押して、再生したいソングを反転表示させます。



4

[>]ボタンを押して決定、再生スタートする

[>]ボタンを押すと自動的に再生がスタートし、「プリセットソング」画面が閉じます。

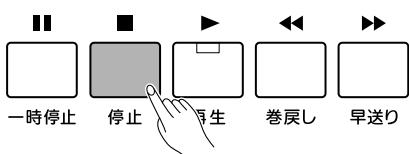


5

停止[■]ボタンを押して再生ストップする

再生位置が自動的に曲の先頭に戻ります。

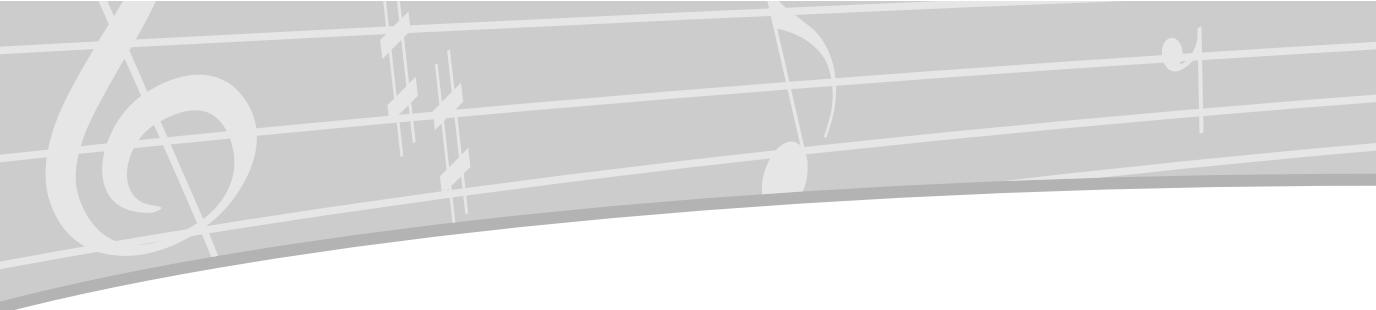
曲が最後まで再生された場合は自動的にストップします。



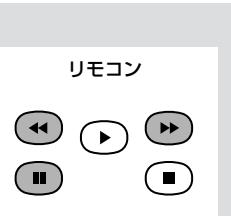
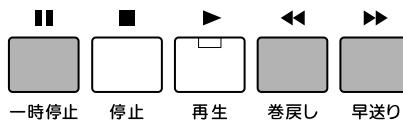
別の曲を再生するには

手順1に戻って[ソング選択]ボタンを押します。





巻戻し/早送り/一時停止



巻戻し [◀◀]巻戻し[◀◀]ボタンを押している間、ソングが巻き戻しされます。

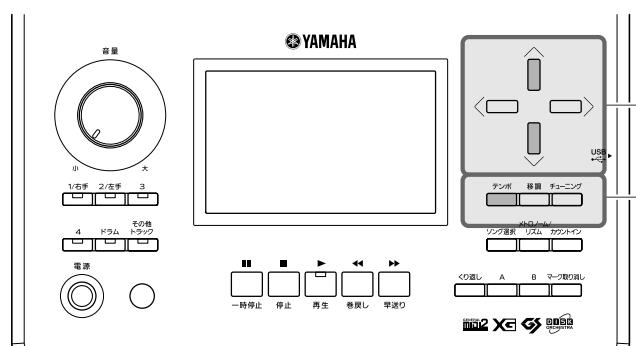
早送り [▶▶]早送り[▶▶]ボタンを押している間、ソングが早送りされます。

一時停止 [■■]再生中に一時停止[■■]ボタンを押すと、再生が一時的に止まります。

もう一度一時停止[■■]ボタンを押すか、再生[▶]ボタンを押すと、一時停止した位置から再生が始まります。

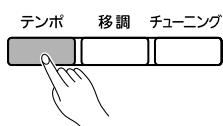
テンポの調節

再生のテンポを、練習に合わせて変更することができます。



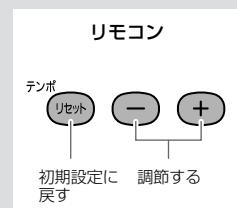
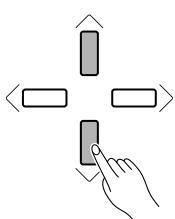
1 [テンポ] ボタンを押す

画面の「テンポ」が反転表示されます。



2 [^]/[v] ボタンでテンポを調節する

[^]/[v]ボタンを押し続けると、テンポが連続して変わります。



設定範囲 : 5~280(数値は1分間の拍数を示します。)

[^]と[v]を同時に押すと、テンポを初期設定に戻せます。

新しいソングを選ぶと、テンポはリセットされて、新しいソングのテンポに切り替わります。

タップテンポ



4拍子の曲なら4回、3拍子なら3回、カウントをとるように[テンポ]ボタンを押すと、そのテンポで曲がスタートします。曲の再生中は、2回叩くとテンポが変わります。タップテンポで設定できる範囲は、32~280です。

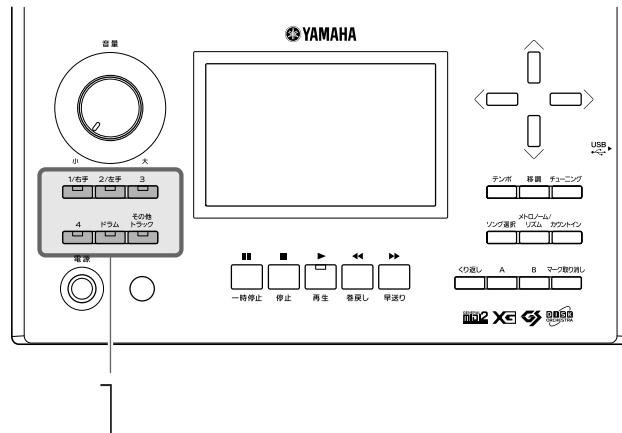
リモコン



基本の画面(22ページ)以外を表示している場合は、一度[テンポ]ボタンを押し、基本の画面に戻ってから操作してください。

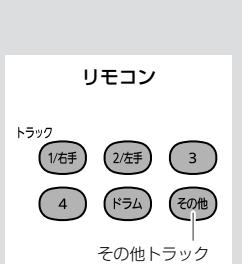
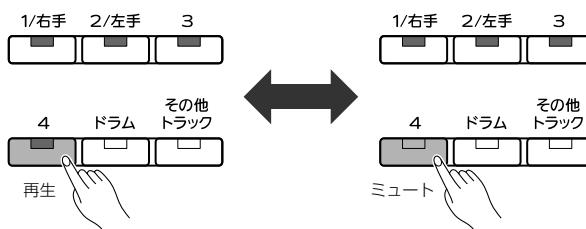
トラックごとの再生/ミュート(消音)

ソングは、演奏のパートや伴奏などに分かれた複数のトラックでできています。ソングを選びと、そのソングのデータが入っているトラック([1/右手]/[2/左手]/[3]/[4]/[ドラム]/[その他トラック])のランプが点灯します。トラックごとに、再生するかミュート(消音)するかを設定できます。



ミュート(消音)したいトラックのボタンを押す

ランプが点灯しているトラックのボタンを押すと、ランプが消灯し、そのトラックがミュート(消音)になります。ボタンを押すごとに再生/ミュートが切り替わります。



新しいソングを選びと、再生/ミュートの設定はリセットされて、データが入っているすべてのトラックのランプが点灯します。

どのトラックにどんなデータが入っているかを確認するには、28 ページの「トラック情報の表示と再生 / ミュート」をご覧ください。

主な使い方

- ・聞きたいパートのトラックだけ再生
- ・ピアノやリコーダー、管楽器などでアンサンブル演奏
メロディーパート(メインパート)のトラックをミュートし、伴奏パートだけ再生しながら、メロディーパートをピアノやリコーダー、管楽器などを使ってご自身で演奏して、アンサンブル演奏を楽しむことができます。
- ・ピアノやオルガンで片手練習
右手パートと左手パートが別々のトラックに入っているピアノ曲などでは、練習したいパートをミュートして、(もう1つのパートを再生しながら)ピアノやオルガンで片手練習することができます。

トラックボタンの点灯のしかた

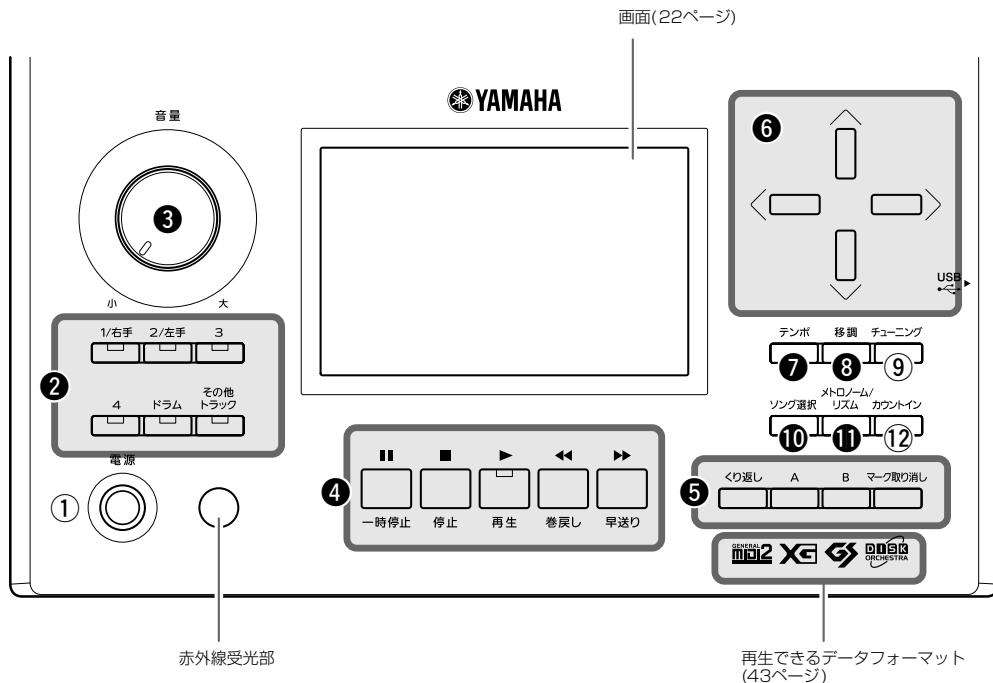
ソングによっては、音のデータが入っていないなくても、ソングをコントロールするデータなどが入っているため、トラックボタンのランプが点灯する場合もあります。データのあるなしにかかわらず、全トラックのランプが点灯する場合もあります。

どのパートがどのトラックに入っているかはソングによって異なります

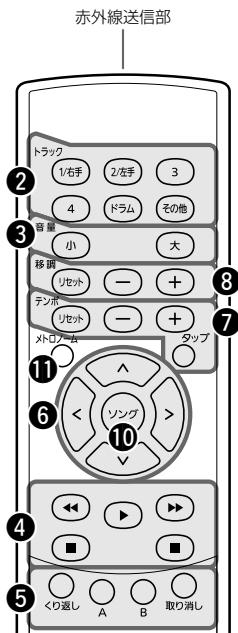
ソングによっては、右手パートと左手パートが1つのトラックに入っていたり、メロディーパートやベースパートが[ドラム]トラックに入っていたりする場合もあります。詳細は、「トラック情報の表示と再生/ミュート」(28ページ)をご覧ください。

各部の名前

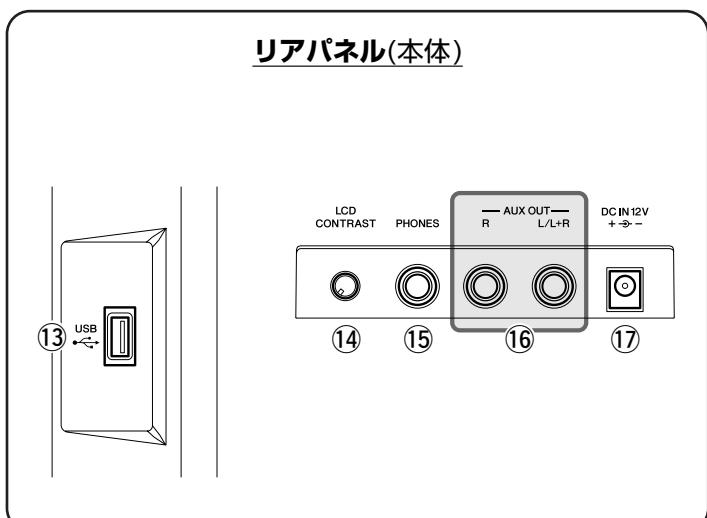
フロントパネル(本体)



リモコン



リアパネル(本体)



フロントパネル

*()内はリモコンのボタン

- ① [電源] スイッチ 10ページ
- ② トラックボタン [1/右手]/[2/左手]/[3]/[4]/[ドラム]/[その他トラック] 18、28ページ
(トラック[1/右手]/[2/左手]/[3]/[4]/[ドラム]/[その他])
- ③ [音量] ダイアル 11ページ
(音量[大]/[小])
- ④ 一時停止 [■]/停止 [■]/再生 [▶]/巻戻し [◀]/早送り [▶] ボタン 16ページ
([■]/[■]/[▶]/[◀]/[▶])
- ⑤ [くり返し]/[A]/[B]/[マーク取り消し] ボタン 30ページ
([くり返し]/[A]/[B]/[取り消し])
- ⑥ [^]/[_]/[<]/[>] ボタン 22ページ
([^]/[_]/[<]/[>])
- ⑦ [テンポ] ボタン 17、32ページ
(テンポ[リセット]/[-]/[+]/[タップ])
- ⑧ [移調] ボタン 34ページ
(移調[リセット]/[-]/[+])
- ⑨ [チューニング] ボタン 26ページ
- ⑩ [ソング選択] ボタン 14、24ページ
([ソング])
- ⑪ [メトロノーム/リズム] ボタン 32ページ
([メトロノーム])
- ⑫ [カウントイン] ボタン 29ページ

リアパネル

- ⑬ [USB] 端子 38ページ
コントラスト
- ⑭ [LCD CONTRAST] つまみ 10ページ
フォーンズ
- ⑮ [PHONES] 端子 38ページ
エーコーエックス アウト
- ⑯ AUX OUT [R] [L/L+R] 端子 38ページ
- ⑰ [DC IN 12V] 端子 10ページ
イン

* 番号の●は本体でもリモコンでも操作できる機能を、○は本体のみで操作できる機能を示します。

リファレンス

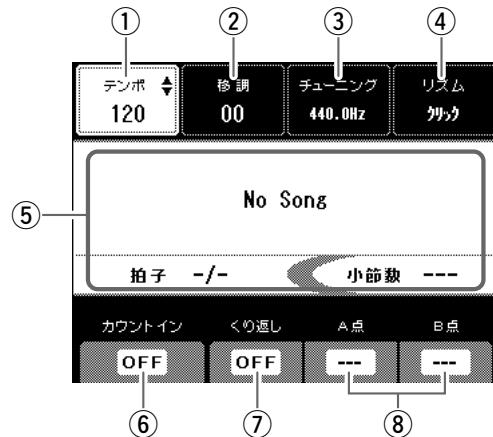
各部の名前

基本操作

画面の見かたと操作

■ 基本の画面

電源を入れたときに表示される画面です。この画面を見れば、今選ばれているソングの状態がひと目でわかります。



- ① **テンポ** ソングやリズムのテンポが表示されます(17、32ページ)。
② **移調** 移調量が表示されます(34ページ)。
③ **チューニング** チューニング値が表示されます(26ページ)。
④ **リズム** 選ばれているメトロノーム/リズムが表示されます(33ページ)。
⑤ **(ソング)** 選ばれているソングの名前(またはファイル名)や拍子、ソングの再生位置(小節数)が表示されます(15ページ)。
(データがソング名を持たない場合に、ファイル名が表示されます。)
⑥ **カウントイン** カウントインのON/OFFが表示されます(29ページ)。
⑦ **くり返し** くり返し再生のON/OFFが表示されます(31ページ)。
⑧ **A点/B点** ジャンプ(30ページ)やくり返し(31ページ)のポイントが表示されます。

テンポ、移調、チューニング、リズムのうち、反転表示されている機能は、設定/選択が可能な状態であることを示します。



例：リズムが選択できる状態です。
[↑]/[↓]ボタンで選択します。

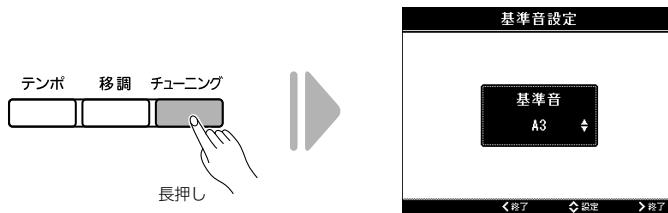
[<]/[>]ボタンで反転表示を移動させてから、[↑]/[↓]ボタンで値を変更したり、リズムを選択したりします。
テンポ、移調、チューニングは、各機能のボタンを押して、反転表示させることもできます。

便利な機能

- 他の画面から**基本の画面**に戻るには、[テンポ]ボタンを押します。
- 「**トラック情報**」画面(28ページ)を表示するには、[その他トラック]ボタンを長押しします。
- 「**リズム選択**」画面(33ページ)を表示するには、[メトロノーム/リズム]ボタンを長押しします。
- 「**基準音設定**」画面(27ページ)を表示するには、[チューニング]ボタンを長押しします。

長押しとは

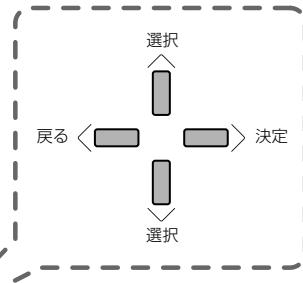
ボタンを2秒以上押します。



■ その他の画面

画面の最下段に、[\wedge]/[\vee]/[$<$]/[$>$]ボタンの操作ガイドが表示されます。選択や設定など、ガイドに従って操作します。

(例)



上図の例では、[\wedge]/[\vee]ボタンで項目を選択し、[$>$]ボタンで決定します。上の階層に戻るには[$<$]ボタンを押します。

画面のアイコン

| | |
|------------|---|
| | フォルダーです。[>]ボタンを押すと、フォルダー内のファイルを表示できます。 |
| | ソングファイルです。 |
| Prot.1 | プロテクトがかかったソングファイルです。 プロテクトがかかったソングの制限については、36ページをご覧ください。 |

ミュージックデータを再生する

USB記憶装置に入ったミュージックデータや内蔵メモリーに保存したデータ(35ページ)を再生します。

USB記憶装置に入ったデータを再生する場合は、USB記憶装置を[USB]端子に接続します。USB記憶装置の取り扱いについては、12ページをお読みください。

USB記憶装置

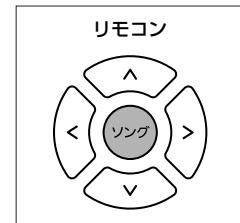
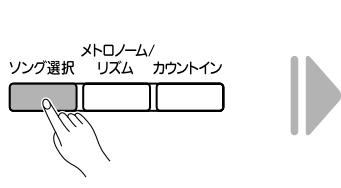
この取扱説明書では、USBフラッシュメモリーやフロッピーディスクドライブをまとめてUSB記憶装置と表記しています。

再生できるデータの種類については、43ページをご覧ください。

1 [ソング選択]ボタンを押す

「ドライブ選択」画面が表示されます。

「ドライブ選択」画面が表示されない場合は、表示されるまで[<]ボタンを何度も押します。



2 ドライブを選んで[>]ボタンを押す

再生したいデータが入ったドライブを選択します。

| | |
|----------|---|
| プリセットソング | あらかじめソングが内蔵されています。 |
| 内蔵メモリー | USB記憶装置からコピーや移動(35ページ)したデータが保存されています。 |
| USB記憶装置 | [USB]端子に接続されたUSB記憶装置(USBフラッシュメモリー/フロッピーディスクドライブ)です。USB記憶装置が接続されていない場合は、「USB記憶装置」は表示されません。 |

ドライブとは

データを保存する場所です。

3 フォルダー/ソングを選んで[>]ボタンを押す

ソングを選択して[>]ボタンを押すと自動的に再生がスタートし、ソング選択画面が閉じます。

再生[▶]ボタンを押してスタートすることもできます。再生[▶]ボタンでスタートした場合は、ソング選択画面を開いた状態で再生されます。



再生中はUSB記憶装置を抜いたり、USB記憶装置からメディアを取り出したりしないでください。メディアが壊れたり、MDP本体/メディアのデータが壊れたりするおそれがあります。

4 停止[■]ボタンを押して再生をストップする

再生がストップし、再生位置が自動的に曲の先頭に戻ります。

曲が最後まで再生された場合は自動的にストップします。

別売ミュージックデータのご紹介

■ ミュージックデータのご使用にあたって

ミュージックデータをご使用の際は、弊社指定のUSB記憶装置をご用意ください。最新の動作確認済みのUSB記憶装置については、下記のサイトをご覧ください。

<http://jp.yamaha.com/products/musical-instruments/keyboards/support/usb/>

音楽データショップ

音楽データショップとは、ミュージックデータを販売するウェブサイトです。およそ12,000曲のMIDIデータと2,000曲の楽譜データ(2008年5月現在)から、お好きなミュージックデータを選び、いつでもご自宅でご購入いただけます。

<http://www.music-eclub.com/musicdata/>

Muma

Muma(ミューマ)とは、ミュージックデータの自動販売システムです。およそ楽器データ7,000タイトル、70,000曲、電子楽譜10,000曲(2008年5月現在)を超えるリストからお好きなミュージックデータを選び、その場でフロッピーディスク、USBフラッシュメモリーに収録できます。ミュージックデータは全国のMuma設置店にてご購入いただけます。Muma設置店はヤマハミュージックメディアホームページにてご確認いただけます。

<http://www.ymm.co.jp/muma/>

楽器の練習の際に便利な機能

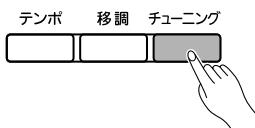
チューニング

ソングの再生音の高さを微調整することができます。

再生音の高さを、演奏する楽器の音の高さに正確に合わせたいときに使います。また、基準音を鳴らして、管楽器や弦楽器などの楽器をチューニングすることもできます。

1 [チューニング]ボタンを押す

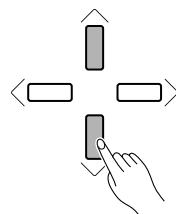
ソングやリズムの停止中は、自動的にA3の音(ピアノでは中央の「ラ」の音)が基準音として鳴ります。再生中や一時停止中には基準音は鳴りません。



基準音が鳴っているときに、ソングやリズムを再生すると、基準音は停止します。

リモコンには、[チューニング]ボタンはありません。

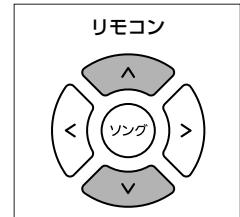
2 [↑]/[↓]ボタンでチューニング値を設定する



設定範囲：415.2 Hz～466.2 Hz(0.2 Hz単位)

初期設定：440.0 Hz

[↑]と[↓]を同時に押すと、初期設定(440.0 Hz)に戻ります。



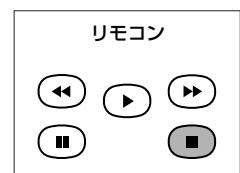
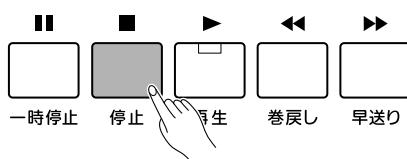
リモコンでは、[↑]と[↓]を同時に押して初期設定に戻すことはできません。

Hz(ヘルツ)とは

音の高さを示す單位です
(音の高さは音波の振動数によって決まります。1秒間に音波が何回振動するかという数値の単位が Hz です)。

3 停止[■]ボタンを押してチューニングを終了する

基準音が鳴り止みます。

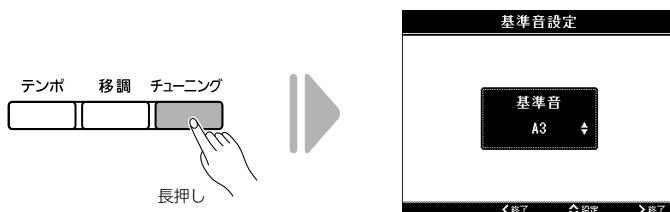


基準音は、[チューニング] ボタンを押して停止することもできます。

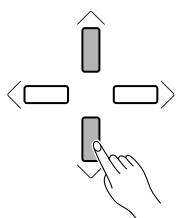
■ 基準音の高さを変更したい場合

楽器のチューニングをするとき、基準音の高さを変更することもできます。

[チューニング]ボタンを長押しすると、「基準音設定」画面が表示されます。(3秒以上操作しないと、「基準音設定」画面は自動的に消えます。)



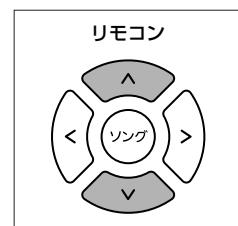
「基準音設定」画面が表示されている間に[\wedge]/[\vee]ボタンで変更します。[\wedge]ボタンを押すと基準音が半音ずつ上がり、[\vee]ボタンを押すと半音ずつ下がります。



設定範囲：A2(=A3の1オクターブ下)～A4(=A3の1オクターブ上)(半音単位)

初期設定：A3

[\wedge]と[\vee]を同時に押すと、初期設定(A3)に戻ります。



基準音

基準音を止めたい場合は停止[■]ボタンを押します。
基準音は移調の設定(34ページ)には影響されません。

設定の記憶

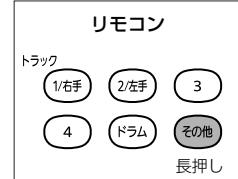
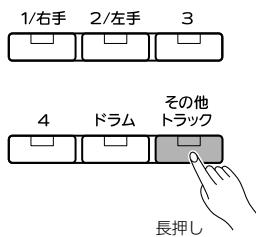
チューニング値や基準音の設定は電源を切っても記憶されています。

トラック情報の表示と再生/ミュート

ソングは、演奏のパートや伴奏などに分かれた複数のトラックでできています。どのトラックにどんなデータが入っているかを一覧表示して、トラックごとに再生/ミュート(消音)を設定できます。

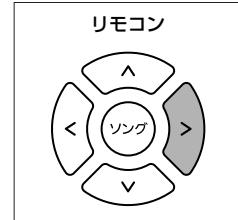
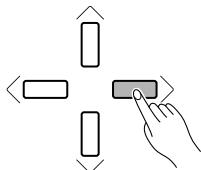
1 [その他トラック]ボタンを長押しする

「トラック情報」画面が表示されます。



2 [^]/[v]ボタンでトラックを選び、[>]ボタンで再生/ミュートを設定する

[>]ボタンを押すたびに再生/ミュートが切り替わります。



基本の画面に戻るには、[<]ボタンを押します。

直接トラックボタン([1/右手]/[2/左手]/[3]/[4]/[ドラム]/[その他トラック])を押して、再生/ミュートを設定することもできます(18ページ)。

カウントイン

ソングの始まりに1~2小節のカウントイン(メトロノーム)を入れて再生スタートすることができます。タイミングをとって楽器を演奏し始めたいときに便利です。

1 カウントインのON/OFFを切り替える

[カウントイン]ボタンを押すたびに、カウントインのON/OFFが切り替わります。

⇒画面の「カウントイン」にON/OFFが表示されます。



カウントインは、リモコンでは操作できません。

2 カウントインを入れて再生スタートする

カウントインをONにしてソングの再生をスタートすると、1~2小節のカウントイン(メトロノーム)が入ってからソングがスタートします。
通常の操作で再生のスタート/ストップができます。

カウント音

「くり返し」がONの場合(31ページ)は、くり返しのカウント音が優先されます。

一時停止を解除したときも、カウントインをONにしていればカウントインが入ります。

再生の手順については、24ページの「ミュージックデータを再生する」をご覧ください。

リファレンス

楽器の練習の際に便利な機能

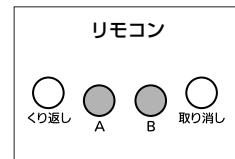
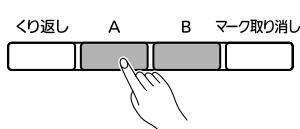
マークとジャンプ/くり返し再生

ソング中のポイント(A点、B点)を設定(マーク)して、再生開始位置をそのポイントへ飛ばしたり(ジャンプ)、A点とB点の間をくり返し再生したりして、楽器の練習をすることができます。

■ マークとジャンプ

1 A点、B点を設定(マーク)する

ソングを再生しながら、A点にしたいポイントで[A]ボタンを、B点にしたいポイントで[B]ボタンを押します。(A点かB点のどちらかだけでもけっこうです。)



小節の区切りでマークする便利な方法

停止中や一時停止中に、早送り[▶▶]ボタンや巻戻し[◀◀]ボタンを使って、マークしたい小節のところで止めて、[A]または[B]ボタンを押します。

⇒A点またはB点が、その小節の先頭(その小節と前の小節との境め)にマークされます。

2 A点、B点にジャンプする

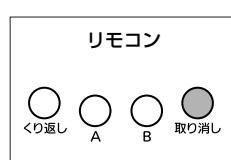
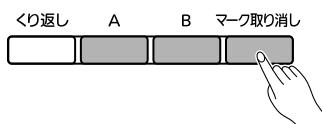
A点、B点を設定後、[A]ボタンを押すとA点へ、[B]ボタンを押すとB点へ、再生開始位置がジャンプします。

再生中にジャンプすると、ジャンプしたポイントへ移って再生が続けます。停止中や一時停止中にジャンプするとジャンプしたポイントへ移って停止中や一時停止のままとなります。

3 マークを解除する

- ・ A点、B点ともに設定を解除：[マーク取り消し]ボタンを押します。
- ・ A点の設定だけ解除：[マーク取り消し]ボタンを押したまま[A]ボタンを押します。
- ・ B点の設定だけ解除：[マーク取り消し]ボタンを押したまま[B]ボタンを押します。

⇒画面のA点、B点の表示が「---」となります。



新しいソングを選ぶと、自動的にA点、B点とも、設定が解除されます。

■ マークとくり返し再生

1 A点、B点を設定(マーク)する

「マークとジャンプ」(30ページ)の手順1の操作で設定します。くり返しの始まりをA点に、くり返しの終わりをB点に設定します。

くり返しの範囲について

- ・ **A点だけ設定した場合**：A点からソングの終わりまでがくり返し範囲となります。
- ・ **B点だけ設定した場合**：ソングの始まりからB点までがくり返し範囲となります。
- ・ **A点もB点も設定しなかった場合**：選ばれているソング全体がくり返し範囲となります。

小節の区切りめでマークする便利な方法(例：9～12小節の場合)

停止中や一時停止中に、早送り[▶▶]ボタンや巻戻し[◀◀]ボタンを使って、くり返しの始まりの小節(009)のところで止め、[A]ボタンを押します。

同様の方法で、くり返しの終わりの次の小節(013)のところで止め、[B]ボタンを押します。

2 くり返しのON/OFFを切り替える

[くり返し]ボタンを押すたびに、くり返しのON/OFFが切り替わります。

⇒画面の「くり返し」にON/OFFが表示されます。

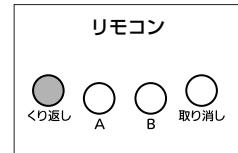


その後、通常の再生、停止操作でくり返し再生のスタート/ストップができます。

新しいソングを選ぶと、自動的にくり返しの設定が解除されます。

3 マークを解除する

「マークとジャンプ」(30ページ)手順3の操作で解除します。



カウント音

くり返し再生がスタートするとき、先頭の小節の前に、自動的に1小節のカウント音が入ります。

A点、B点が設定されていない場合は、くり返し再生のカウント音は鳴りません。

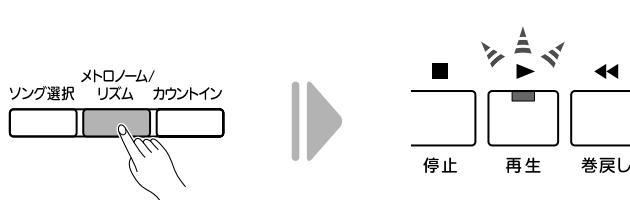
「カウントイン」がONの場合(29ページ)でも、くり返し再生のカウント音が優先されます。

メトロノーム/リズム

本体には、メトロノーム(楽器の練習によく使われる、正確なテンポを刻む道具)や、ロックやジャズなどの各種リズムが入っています。タイミングをとる助けとして使ったり、リズムに合わせて楽器を演奏したりできます。

1 [メトロノーム/リズム]ボタンを押してリズムをスタートする

再生[▶]ボタンのランプが、テンポに合わせて点滅します。



リズムリスト

40ページをご覧ください。

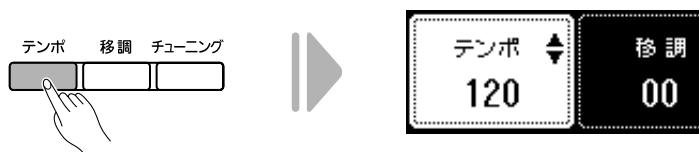
リモコン

メトロノーム

一時停止中など、ソングが途中で止まっているときは、リズムを再生できません。停止[■]ボタンを押してから、リズムを再生してください。

2 [テンポ]ボタンを押す

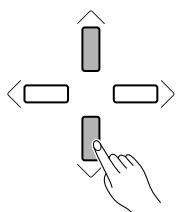
画面の「テンポ」を反転表示させます。



ソング再生中に[メトロノーム/リズム]ボタンを押すと、ソングの拍子とテンポに合わせて、(選ばれているリズムに関係なく)メトロノームクリック音が鳴ります。

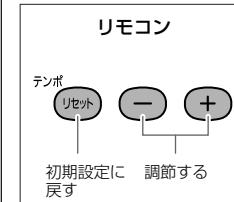
リズム再生中に、ソングの再生をスタートすると、リズムは停止します。

3 [↑]/[↓]ボタンでテンポを調節する



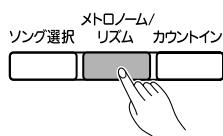
設定範囲 : 5~280 (数値は1分間の拍数を示します。)

[↑]と[↓]を同時に押すと、テンポをリズムの初期設定に戻せます。
(ソング再生中には、ソングの初期設定テンポに戻ります。)



リズム再生中は、タップテンポ機能(17ページ)でリズムのテンポを調節することもできます。

4 もう一度[メトロノーム/リズム]ボタンを押してリズムをストップする



停止[■]ボタンでもストップできます。

リモコン

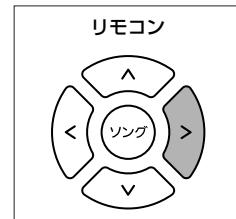
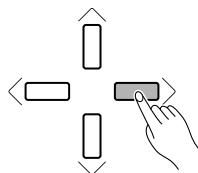
メトロノーム

■ リズムを変更したい場合

1

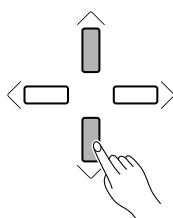
基本の画面で[>]ボタンを押して、画面の「リズム」を反転表示させる

「リズム」が反転表示されるまで、何度か[>]ボタンを押します。

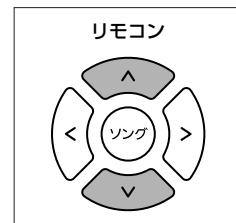


2

[^]/[v]ボタンでリズムを選ぶ



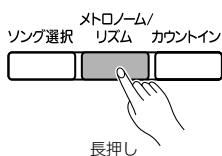
[^]と[v]を同時に押すと、初期設定(クリック)に戻ります。



「リズム選択」画面(リズム一覧)の表示

[メトロノーム/リズム]ボタンを長押しすると、「リズム選択」画面を表示できます。

「リズム選択」画面では、[^]/[v]ボタンでリズムを選択して、[>]ボタンで決定します。[>]ボタンを押すと自動的に再生がスタートし、基本の画面に戻ります。



| リズム選択 | |
|-------------|-----|
| クリック | |
| 2拍子 | 2/4 |
| 3拍子 | 3/4 |
| 4拍子 | 4/4 |
| 6拍子 | 6/4 |
| 9拍子(D) | |
| 2拍子(D) | 2/4 |
| 3拍子(D) | 3/4 |

< 戻る

◆ 録音

> 決定



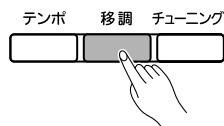
リズムを選んだ後に、[メトロノーム/リズム]ボタンを押して再生をスタートすることもできます。この場合は、「リズム選択」画面を表示したまま、再生リズムを切り替えられます。基本の画面に戻るには、[<]ボタンを押します。

移調

ソングを移調することができます。たとえば、移調量を「5」に設定すると、「ハ長調」のソングが「ヘ長調」になります。再生音をお手持ちの楽譜のキーに合わせたいときなどに使います。

1 [移調]ボタンを押す

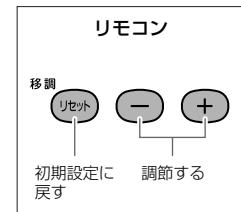
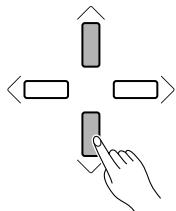
画面の「移調」が反転表示されます。



移調とは

曲全体の音の高さを上げたり下げたりしてキー(調)を変えること。

2 [^]/[v]ボタンで移調量を調節する



設定範囲: -24 [-2オクターブ] ~ 0 ~ 24 [+2オクターブ] (半音単位)

初期設定: 0

[^]と[v]を同時に押すと、初期設定(0)に戻ります。

データのコピーなどのファイル操作

USB記憶装置にあるファイルやフォルダーを本体の内蔵メモリーにコピーしたり、移動したりできます。また逆に内蔵メモリーからUSB記憶装置へも移動やコピーすることができます。

ここでは、データのコピー、移動、削除といったファイル操作やUSB記憶装置のフォーマットについて説明します。

USB記憶装置の接続や取り扱いについては、「他の機器との接続」(38ページ)をお読みください。

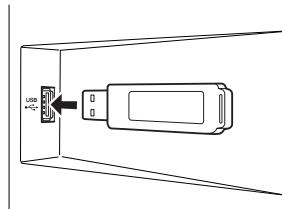
ファイルとは

あるデータのまとまりを1つの単位として保存したものです。

プリセットソングは、コピー/移動/削除ができません。

ファイルやフォルダーのコピー / 移動 / 削除

1 USB記憶装置の接続を確認する



2 コピー / 移動 / 削除するファイルやフォルダーを選ぶ

操作したいファイルやフォルダーを反転表示させます。

内蔵メモリーのフォルダーについて

内蔵メモリーに保存できるフォルダーは3階層までです。ただし、USB記憶装置から内蔵メモリーへすべて一度にコピーする場合(36ページ)は、自動的にフォルダーが1つ生成されるため、実際にコピーできるのは2階層までとなります。

これより下の階層のフォルダーに保存されたデータは、内蔵メモリーに移動やコピーができません。

ファイルやフォルダーの選び方については、24ページの「ミュージックデータを再生する」をご覧ください。

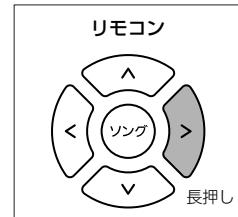
フォルダーは、移動ができません。

ドライブ内のデータをすべて一度にコピーすることもできます(36ページ)。

内蔵メモリーに保存できるデータの容量は、何も保存されていないときで約4MBです。

3 「ファイル操作」画面を表示させる

[>]ボタンを長押しします。



4 操作したい項目を選んで、決定[>]ボタンを押す

あとは画面の指示に従って操作します。

コピー先/移動先は、USB記憶装置からは内蔵メモリーが、内蔵メモリーからはUSB記憶装置が自動的に選ばれます。



実行中は、USBケーブルを抜いたり、USB記憶装置からメディア(フロッピーディスクなど)を取り出したり、電源を切ったりしないでください。メディアが壊れたり、本体やメディアのデータが壊れたりするおそれがあります。

フォルダーのコピー中にエラーが発生した場合、フォルダー内の一部だけがコピーされることがあります。

■ ドライブ内のデータをすべてコピーする場合

ドライブ(内蔵メモリー / USB記憶装置)内のデータを一度にすべてコピーすることができます。

「ドライブ選択」画面で、コピーしたいドライブを選んで、「>」ボタンを長押しします。
「すべてコピー」を選んだら、あとは画面の指示に従って操作します。

USB記憶装置から内蔵メモリーへすべてコピーすると、自動的にフォルダー「DISK_XXXX」(XXXXは0000～9999の数字)が生成され、その中にデータは保存されます。

■ プロテクトがかかったソングの制限

市販のミュージックデータ(ソング)の中には、コピー防止や誤消去防止のためにプロテクトがかかっているものがあります。プロテクトがかかったソングは、ソング名の左側に下記のような表示が出ます。

| | |
|--------|---|
| Prot.1 | DOC(ディスクオーケストラコレクション)、ピアノプレーヤー用のミュージックデータです。内蔵メモリーにコピーができますが、移動はできません。USB記憶装置にはコピー / 移動できません。 |
| | ヤマハのプロテクトフォーマットがかかったソングです。コピーができません。内蔵メモリーとUSB記憶装置との間で移動はできます。ただし、フロッピーディスクへは移動できません。 |
| | 上記「」を編集し、保存したソングです。編集元のファイルと同じフォルダーに保存します。コピーができません。内蔵メモリーとUSB記憶装置との間で移動はできます。ただし、フロッピーディスクへは移動できません。 |

「」と「」の扱い

「」と「」のソングは、同じフォルダーに保存してください。「」のソングは、同じフォルダーに編集元の「」のソングがないと再生できません。「」のソングを移動するときは、必ず「」のソングと一緒に移動してください。

ドライブの初期化(フォーマット)

USB記憶装置や内蔵メモリーを初期化(フォーマット)して、ドライブ内のデータをすべて削除します。[USB]端子に接続したUSB記憶装置にフロッピーディスクなどのメディアを入れたとき、またはそれ自身がメディアとなっているUSB記憶装置を[USB]端子に接続したときに、記憶装置をフォーマットするように促すメッセージが表示されることがあります。その場合は、フォーマットを実行してください。



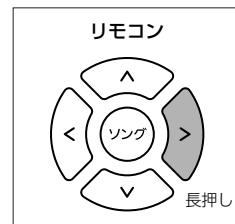
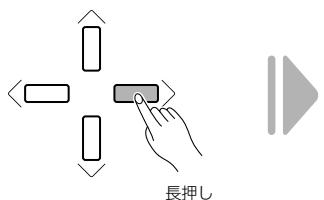
フォーマットを実行すると、そのドライブ内のデータはすべて消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。

1 [ソング選択]ボタンを押して「ドライブ選択」画面を表示する

「ドライブ選択」画面が表示されない場合は、「ドライブ選択」画面が表示されるまで何度か[<]ボタンを押します。

2 フォーマットしたいドライブを選んで[>]ボタンを長押しする

「ファイル操作」画面が表示されます。



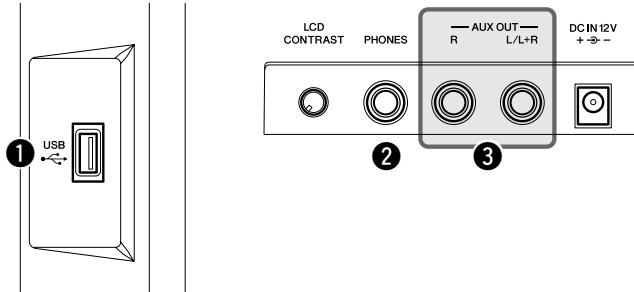
3 「フォーマット」を選んで決定[>]ボタンを押す

実行を確認するメッセージが表示されます。フォーマットする場合は「はい」を、フォーマットしない場合は「いいえ」を選んで、決定[>]ボタンを押します。



フォーマット中は、電源を切ったり、メディアを抜いたりしないでください。データが壊れるおそれがあります。

他の機器との接続



① [USB]端子

USB記憶装置を接続する端子です。USB対応の記憶装置を、向きを間違えないように注意して接続します。USB記憶装置の取り扱いについては、12ページの「USB記憶装置の取り扱いについて」をお読みください。

② [PHONES]端子

ヘッドフォン(別売)を接続する端子です。ヘッドフォンを接続すると、MDP-30のスピーカーからは音が出ません。



大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

③ エーユーエックスアウト

③ [AUX OUT] [R] [L/L+R]端子

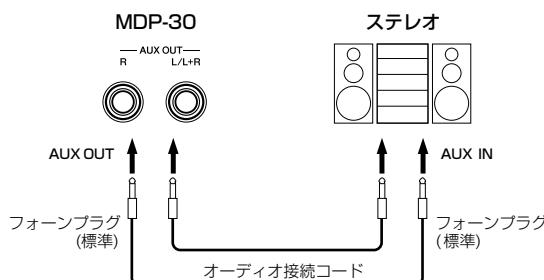
MDP-30をステレオなどに接続してステレオから音を出すときに使用します。また、MDP-30で曲を再生しながらオーディオ入力/スピーカー付きの電子楽器で演奏する場合には、この端子と電子楽器の入力端子を接続することで、楽器のスピーカーからMDP-30の再生音を鳴らせます。



他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行ってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にしてください。



電源を入れるときは、「MDP-30→外部機器」の順に、電源を切るときは、「外部機器→MDP-30」の順に、行なってください。



別売ヘッドフォン

HPE-150/160

オーディオ接続コードおよび接続プラグは抵抗のないものをお使いください。

AUX OUT[R] [L/L+R]端子に出力される音量は、MDP-30のリモコンの音量[大]/[小]ボタンで調節できます。

通常は、MDP-30のスピーカーに適した音響設定になっていますが、AUX OUT[L/L+R]端子を外部端子を接続すると、外部出力に適した音響設定に変わります。このときMDP-30のスピーカーから出る音量と音質も変わります。

モノラル入力の楽器に接続する場合は、AUX OUT[L/L+R]端子をご使用ください。

Memo

リファレンス

他の機器との接続

プリセットソングリスト

| ソング名 | 作曲者 |
|----------------|---------------------------|
| デモソング | (Yamaha Original) |
| エリーゼのために | L. v. Beethoven |
| ローレライ | F. Silcher |
| グノーのアベ・マリア | J. S. Bach / C. F. Gounod |
| 貴婦人の乗馬 | J. F. Burgmüller |
| 白鳥「動物の謝肉祭」より | C. Saint-Saëns |
| メヌエット「アルルの女」より | G. Bizet |
| 白鳥の湖 | P. I. Tchaikovsky |
| タイスの瞑想曲 | J. Massenet |
| もろびとござりて | (Traditional) |

リズムリスト

| リズム名 | 画面表示 |
|-------------------|---------|
| メトロノーム(クリック) | クリック |
| メトロノーム(2拍子) | 2拍子 |
| メトロノーム(3拍子) | 3拍子 |
| メトロノーム(4拍子) | 4拍子 |
| メトロノーム(6拍子) | 6拍子 |
| デジタル メトロノーム(クリック) | クリック(D) |
| デジタル メトロノーム(2拍子) | 2拍子(D) |
| デジタル メトロノーム(3拍子) | 3拍子(D) |
| デジタル メトロノーム(4拍子) | 4拍子(D) |
| デジタル メトロノーム(6拍子) | 6拍子(D) |
| 8ビート 1 | 8ビート1 |
| 8ビート 2 | 8ビート2 |
| 8ビート 3 | 8ビート3 |
| 8ビート 4 | 8ビート4 |
| ハードロック | ハードロック |
| シェイク | シェイク |
| 16ビート 1 | 16ビート1 |
| 16ビート 2 | 16ビート2 |
| 16ビート 3 | 16ビート3 |
| 16ビート 4 | 16ビート4 |
| トリプレットビート | トリプレット |
| シャッフル | シャッフル |
| スイング | スイング |
| 6/8 | 6-8 |
| マーチ | マーチ |
| マーチ(6/8) | 6-8 マーチ |
| ボサノバ | ボサノバ |
| サンバ | サンバ |
| ビギン | ビギン |
| チャチャ | チャチャ |
| ワルツ | ワルツ |
| ジャズワルツ | ジャズワルツ |

メッセージ一覧

| メッセージ | 説明 |
|--|---|
| USB記憶装置を認識中です。 | メッセージ表示中は、USB記憶装置を抜いたり、USB記憶装置からメディアを取り出したりしないでください。データが壊れたり、USB記憶装置が壊れたりするおそれがあります。 |
| USB記憶装置がフォーマットされていません。フォーマットしてください。 | フォーマット(初期化)の仕方については、37ページの「ドライブの初期化(フォーマット)」をご覧ください。 |
| このUSB機器はサポートされていません。 この機器で扱えないUSB機器が接続されています。 | MDP-30で使用できないUSB機器が接続されています。動作確認済みのUSB機器(25ページ)をご使用ください。 |
| USB記憶装置が見つかりません。 | USB端子にUSB記憶装置が接続されていません。または、USB記憶装置にフロッピーディスクが挿入されています。 |
| USB記憶装置との通信に失敗しました。 | USB記憶装置の接続に問題がないことを確認してください。また、動作確認済みのUSB機器(25ページ)をご使用ください。 |
| ディスクプロテクトされています。 | このメディアは、プロテクトがかかっているため書き込みができません。プロテクトを解除してから操作し直してください。プロテクトを解除してもこのメッセージが出る場合は、内部的にプロテクトされているメディア(一部の市販のミュージックデータなど)ですでの書き込みやコピーはできません。 |
| この機器では対応していません。 | 曲データのフォーマットがMDP-30に対応していません。再生できるフォーマットについては43ページをご覧ください。 |
| 正常なデータではありません。 | ソングを選び直してみてください。それでもこのメッセージが出る場合は、データが壊れている可能性があります。 |
| データサイズが大きすぎるため、選曲できません。 | データが大きすぎるため、MDP-30では再生できません。 |
| フォルダー内にプロテクトされたファイルがあるため、コピーはできません。 プロテクトされたファイルのコピーや移動はできません。 このファイルはコピーが禁止されています。 移動してください。 プロテクトされたファイルのコピーはできません。 編集元のプロテクトソングがないので再生できません。 | プロテクトされたファイルの制限については、36ページの「プロテクトがかかったソングの制限」をご覧ください。 |
| ファイル/フォルダーの数が制限を超えています。既存のファイルまたはフォルダーを削除してください。 | 内蔵メモリーやUSB記憶装置に保存できるファイル/フォルダーの数には制限があります。(USBフラッシュメモリーの場合、1つのフォルダーに、ファイルとフォルダー合わせて250までです。)不要なファイルを削除/移動してから操作し直してください。 |
| 内蔵メモリーで扱えるフォルダー階層を超えています。一部のファイル/フォルダーがコピーできませんでした。 | 内蔵メモリーのフォルダー階層については、35ページの「内蔵メモリーのフォルダーについて」をご覧ください。 |
| 書き込みエラーが発生しました。 DISK_9999を削除してください。 | 内蔵メモリー内にある「DISK_9999」フォルダーを削除してください。 |

ここでは、代表的なメッセージだけを掲載しています。

困ったときは

| 現象 | 考えられる原因 | 解決法 |
|---|--|---|
| MDP-30の電源が入らない。 | 電源プラグが差し込まれていません(本体側と家庭用コンセント側)。 | 電源プラグを本体と家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください(10ページ)。 |
| 全体的に音が小さい。まったく音が出ない。 | 音量が下がっています。 | 本体およびリモコンの音量を上げてください(11ページ)。 |
| | ヘッドフォンが接続されています。 | ヘッドフォンを抜いてください(38ページ)。 |
| | すべてのトラックがミュート(消音)になっています。 | データが入っているトラック(1つ~すべて)の設定を再生にしてください(18、28ページ)。 |
| リズムが再生できない。 | ソングが一時停止中、またはA点/B点で止まっています。 | 停止[■]ボタンを押してから、リズムを再生してください。 |
| ボタンを押しても効かない。 | その機能が使えない状態のときにボタンが押されました。 | 使用状態によって使えない機能があります。各機能の説明をご覧ください。 |
| メトロノームやカウントイン、くり返しのカウント音の拍子/テンポが、ソングの拍子/テンポと合わない。 | フリーテンポの曲(一定のテンポが設定されていない曲)は、拍子やテンポがメトロノームやカウント音と合わないことがあります。 | メトロノームやカウントイン、くり返しを停止(OFF)してご利用ください。 |
| リモコンで操作できない。 | リモコンの操作可能範囲外から操作しようとしています。 | 操作可能範囲内で操作してください(11ページ)。 |
| | 本体の赤外線受光部に直射日光などの光が当たっています。 | 光が直接当たらないところへ本体を移動してください。 |
| | 電池が消耗しています。 | 新しい電池と交換してください。 |
| | リモコンと本体の受光部の間に障害物があります。 | 障害物を取り除いてください。 |

「メッセージ一覧」(41ページ)もご参照ください。

再生できるデータについて

MDP-30は各種の代表的なフォーマット(形式)の曲データを再生することができます。ここでは、MDP-30で再生できる曲データのフォーマットをご紹介します。

市販のいろいろな種類のミュージックデータや、電子楽器などで録音した曲データ、コンピューターなどで作成した曲データについても、下記のフォーマットに該当していれば、MDP-30で再生できます。

「シーケンスフォーマット」、「音色配列フォーマット」、「ディスクのフォーマット」それぞれについて、下記のいずれかに該当していないと、再生できなかったり、正しく再生できなかったりします。

■ シーケンスフォーマット

曲データを記録する書式のことをシーケンスフォーマットと言います。

SMF(スタンダードMIDIファイル)

市販の多くの曲データで採用されている代表的なシーケンスフォーマットの1つです。

SMFには「フォーマット0」と「フォーマット1」の2種類がありますが、MDP-30は、両方に対応しています。

ESEQ

ヤマハの多くの機器やミュージックデータで採用されている代表的なシーケンスフォーマットの1つです。

■ 音色配列フォーマット

MIDIでは音色を番号で指定します。その番号のつけ方(音色を並べる順番)の規格を「音色配列フォーマット」と言います。

GMシステムレベル1

代表的な音色配列フォーマットの1つです。

市販のミュージックデータの多くが「GMシステムレベル1」で作られています。



GMシステムレベル2

「GMシステムレベル1」をさらに表現力を高める機能にまで拡張したフォーマットです。



XG

「GMシステムレベル1」をさらに拡張し、豊かな表現力とデータの継続性を可能にしたヤマハの音源フォーマットの音色配列です。



GS

GS フォーマットは、ローランド株式会社の音源フォーマットです。



ヤマハのXG フォーマットと同様、GM (General MIDI、MIDIの応用配列で音色配列に関する共通仕様) の仕様に加え、音色セットやドラムセットの拡張、音色の修正、エフェクトなどの拡張機能を規定しています。

MDP-30では、GS フォーマットの曲データも再生できますが、元のデータと同じ音色を再現できないことがあります。

DOC (Disk Orchestra Collection =ディスクオーケストラコレクション)



クラビノーバをはじめとするヤマハの多くのMIDI機器で対応している音色配列です。

ヤマハ別売ミュージックデータのDOCファイルなどで使われています。

■ フロッピーディスクのフォーマット

MDP-30には、別売のフロッピーディスクドライブを接続できます(44ページ)。フロッピーディスクのデータの収納方式にはいくつかの種類があり、MDP-30では、下記のフォーマットのディスクを再生できます。

MS-DOS 720KBフォーマットの3.5インチ2DD ディスク

MS-DOS 1.44MBフォーマットの3.5インチ2HD ディスク

困ったときは／再生できるデータについて

付
録

別売のミュージックデータについて25ページで紹介しています。ぜひご活用ください。

仕様

| | | | |
|-----------|----------|---|--|
| サイズ/質量 | 寸法 | 幅 | 256mm |
| | | 高さ | 253mm |
| | | 奥行き | 216mm |
| | 質量 | 2.3kg | |
| 操作子 | ディスプレイ | タイプ | フルドットLCD |
| | | サイズ | 320×240ドット |
| | | カラー | モノクロ |
| | | コントラスト | ○ |
| | | 言語 | 日本語 |
| | パネル | 言語 | 日本語 |
| 音源/音色 | 音源 | 音源方式 | AWM音源 |
| | | 発音数 | 最大同時発音数 64 |
| | | プリセット | 音色数 292音色+480XG音色+13ドラム/SFXキット+GM2+GS |
| | 音源フォーマット | GM2 | ○ |
| | | XG | ○ |
| | | GS | ○ |
| | | DOC | ○ |
| 再生 | プリセット | リズム数 | 22リズム+10メトロノーム |
| | | ソング数 | 10 |
| | 互換性 | 再生フォーマット | SMF(フォーマット0、1)、ESEQ |
| ファンクション | 全体設定 | メトロノーム | ○ |
| | | テンポ | 5~280 |
| | | 移調 | ○ |
| | | チューニング | ○ |
| メモリー/接続端子 | メモリー | 内蔵メモリー | 3,904KB |
| | | 外付けドライブ | フロッピーディスクドライブ、USBフラッシュメモリー接続可(USB端子経由) |
| | 接続端子 | DC IN | DC IN 12V |
| | | ヘッドフォン | ○ |
| | | AUX OUT | L/L+R、R |
| | | USB | ○ |
| アンプ/スピーカー | アンプ出力 | 6W+6W | |
| | スピーカー | 10cm+10cm | |
| 電源 | 電源 | 電源アダプター(PA-5Dまたはヤマハ推奨の同等品) | |
| | 消費電力 | 28W | |
| 付属品 | 同梱品 | 電源アダプター、保証書、ユーザー登録のご案内、リモコン、単3乾電池(2本)、取扱説明書(本書) | |

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

別売品のご紹介

| | |
|---------------|---|
| ヘッドフォン | HPE-150/HPE-160 YHE-90S(学校専用モデル)* *取扱店のお問い合わせは管弦打学校営業部まで(裏表紙参照) |
| フロッピーディスクドライブ | UD-FD01 |

索引

| | |
|-----------------------|------------|
| A | |
| AUX OUT [R] [L/L+R]端子 | 38 |
| A点 | 30 |
| B | |
| B点 | 30 |
| L | |
| [LCD CONTRAST] | 10 |
| M | |
| Muma | 25 |
| U | |
| USB記憶装置 | 12, 38 |
| [USB]端子 | 12, 38 |
| あ | |
| アイコン | 23 |
| アンサンブル演奏 | 19 |
| い | |
| 一時停止 | 16 |
| 移調 | 34 |
| 移動 | 35 |
| お | |
| オプション(別売品) | 44 |
| 音楽データショップ | 25 |
| 音量 | 11 |
| か | |
| カウントイン | 29 |
| カウント音 | 29, 30, 31 |
| 片手練習 | 19 |
| 画面 | 22 |
| 画面のコントラスト | 10 |
| き | |
| 基準音 | 27 |
| 「基準音設定」画面 | 27 |
| 基本操作 | 22 |
| 基本の画面 | 22 |
| く | |
| くり返し | 31 |
| こ | |
| コピー | 35 |
| さ | |
| 再生 | 14, 24 |
| 削除 | 35 |
| し | |
| ジャンプ | 30 |
| 仕様 | 44 |
| 消音(ミュート) | 18, 28 |
| 初期化(フォーマット) | 37 |
| そ | |
| ソング | 14 |

| | |
|--------------------|--------|
| た | |
| タップテンポ | 17 |
| ち | |
| チューニング | 26 |
| て | |
| データフォーマット | 43 |
| 電源 | 10 |
| テンポ | 16, 32 |
| と | |
| ドライブ | 24 |
| トラック | 18, 28 |
| 「トラック情報」画面 | 28 |
| な | |
| 内蔵メモリー | 24 |
| 長押し | 23 |
| は | |
| パートオフ(ミュート) | 18, 28 |
| 早送り | 16 |
| ふ | |
| フォーマット(再生できるデータ形式) | 43 |
| フォーマット(初期化) | 37 |
| 付属品 | 6 |
| プリセットソング | 14 |
| プリセットソングリスト | 40 |
| フロッピーディスク | 13 |
| プロジェクトソング | 36 |
| へ | |
| ヘッドフォン | 38 |
| 別売品 | 44 |
| 別売ミュージックデータのご紹介 | 25 |
| ま | |
| マーク | 30 |
| マイナスワン(ミュート) | 18, 28 |
| 巻戻し | 16 |
| み | |
| ミュート(消音) | 18, 28 |
| め | |
| メッセージ一覧 | 41 |
| メトロノーム | 32 |
| り | |
| リズム | 32 |
| 「リズム選択」画面 | 33 |
| リズムリスト | 40 |
| リセット | 17, 34 |
| リモコン(全体図) | 20 |
| リモコンの準備 | 11 |

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

●保証書

本機には保証書がついています。

保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

●保証期間

お買い上げ日から1年間です。

●保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

右記の部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、フロッピーディスクドライブなど

●補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

●持込み修理のお願い

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りの修理品お持ち込み窓口へ本機をご持参ください。

●製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態ができるだけ詳しくお知らせください。

◆修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター



0570-012-808

※一般電話・公衆電話からは、市内通話料金でご利用いただけます。

(携帯電話、PHS、IP電話からは TEL 053-460-4830)

●受付時間

月曜日～金曜日 9:00～18:00、土曜日 9:00～17:00
(祝日およびセンター指定休日を除く)

●FAX

東日本（北海道/東北/関東/甲信越） 03-5762-2125
西日本（沖縄/九州/中国/四国/近畿/東海/北陸） 06-6465-0374

◆修理品お持込み窓口

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～17:45 (祝日および弊社休業日を除く)

* お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

北海道サービスステーション

〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内

FAX 011-512-6109

首都圏サービスセンター

〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1 京浜トラックターミナル内 14号棟A-5F

FAX 03-5762-2125

名古屋サービスセンター

〒454-0832 名古屋市中川区清船町4丁目1-11 ピアノ運送株式会社 名古屋営業所 1F

FAX 052-363-5903

大阪サービスセンター

〒554-0024 大阪市北花区島屋6-2-82 ユニバーサル・シティ和幸ビル9F

FAX 06-6465-0374

九州サービスステーション

〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4

FAX 092-472-2137

※名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります。

ミュージックデータプレーヤーの機能や取り扱いについては、ご購入の特約店または
下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター 電子ピアノ・キーボードご相談窓口

ナビ
ダイヤル **0570-006-808**
市内通話料でOK
ナビダイヤル[®] 携帯電話、PHS、IP電話からは 053-460-5272

営業時間：月曜日～金曜日 10:00～18:00、土曜日 10:00～17:00
(祝日およびセンター指定休日を除く)

<http://jp.yamaha.com/support/>

◆インターネットホームページのご案内

製品等に関する情報をホームページ上でご案内しております。ご参照ください。

ヤマハ株式会社のホームページ

<http://jp.yamaha.com/>

ピアノ/キーボードのホームページ

<http://jp.yamaha.com/products/musical-instruments/keyboards/>

ヤマハマニュアルライブラリー

<http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>

音楽データショップ(曲データ・楽譜データ販売)

<http://www.music-eclub.com/musicdata/>

学校音楽のホームページ

<http://www.yamaha.co.jp/edu/>

ヤマハ株式会社

デジタル楽器事業部 マーケティング部 CL・PKグループ

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

* 都合により、住所、電話番号、名称、営業時間などが変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。